キレート剤の市場調査レポート:企業・地域・種類・用途別の分析と市場予測



HJResearchでは、「キレート剤の世界市場:成長、動向、予測」調査資料の販売を2023年9月22日 に開始いたしました。本調査レポートは、キレート剤の世界市場について調査・分析した資料で、キレート剤の市場概要、動向、セグメント別市場規模、地域別分析、競争状況、企業情報、市場機会分析などで構成されています。

キレート剤とは、金属イオンを取り込んで安定な化合物を形成する性質を持った有機物または無機物のことを指します。金属イオンは水中に存在することが多く、キレート剤はこの水中のイオンを捕捉して安定な錯体を形成し、水処理や洗浄剤、農薬、食品添加物など様々な分野で利用されています。

現在の市場規模は6276億円であり、CAGRは4.4%となっています。世界的にはBASF、AkzoNobel、Dow、Kemira、Ashland、ADM、Huntsman、Tosohなど大手メーカーが存在しており、中国でもFuyang Biotech、Dongxiao Biotech、Kaixiang BioChem、Taihe Chem、Huiyang Biotech、Langyataiなどの企業が台頭してきています。

市場では、主にクリーナー、水処理、パルプ&紙、農薬、パーソナルケア、製薬、食料と飲料などの分野で利用されています。

特に、水処理や食料と飲料関連の分野での需要が高まっており、環境保護や食品安全に対する関心が高まる中、キレート剤需要の拡大が期待されます。

今後は、環境に配慮した製品の開発や、代替品への移行が求められるようになると予想されます。また、治療効果や副作用などに影響を与えることから、医薬品分野でも利用が期待されています。加えて、キレート剤の材料の高度化や効率化にも注目が集まっています。これにより、市場の拡大や競争が激化することが予測されています。

キレート剤産業のSWOT分析は以下の通りです。

【強み】

キレート剤は様々な用途で使用される万能な化学物質であり、需要が多岐にわたっている。 錯体を形成する性質を持つため、金属イオンによる汚染や不純物を取り除く効果がある。 キレート剤は、市場に参入しやすく、多くの企業が参入しているため、競争が活発である。 ノンイオン性、低毒性、バイオデグラダブルなど環境に優しい製品開発が可能である。

【弱み】

キレート剤は金属イオンを取り込む性質を持ち、放出による環境への影響が指摘されている。 生産過程において環境負荷を考慮した製造プロセスが必要であり、コストがかかる。 代替品への移行が求められることもある。

【機会】

環境保護や食品安全に対する関心の高まりから、キレート剤の需要が拡大することが期待される

医薬品分野での利用が進み、新たな用途が見つかる可能性がある。

キレート剤の研究開発によって、環境への負荷が少なく、効果的な製品が開発されることが期待 される。

【脅威】

環境保護や食品安全に対する関心の高まりに伴い、厳しい規制や法律が制定されることがある。 原料費用の変動により、コスト管理が難しくなることがある。

代替品の普及や競合他社の参入によって市場占有率が低下する可能性がある。

グローバルキレート剤市場の主要企業は次のとおりです:

BASF

AkzoNobel

Fuyang Biotech

Dow

Dongxiao Biotech

Kaixiang BioChem

Taihe Chem

Huiyang Biotech

PMP

AVA Chemicals

Jungbunz lauer

Roquette Freres

Kemira

Langyatai

Jack Chem

IRO Chelating

Ashland

Qingshuiyuan

NICCA

ADM

Huntsman

Tosoh

Huaming Biotech

Unischem

製品タイプ別の市場セグメンテーション:

アミノポリカルボキシレート

ニトリロ三酢酸と塩

ヒドロキシカルボン酸

有機ホスホネート

用途による市場セグメンテーション:

クリーナー

水処理

パルプ&紙

農薬 パーソナルケア 製薬 食料と飲料 その他

■レポートの言語:日本語

■レポートのタイトル:キレート剤の市場調査レポート:企業別、地域別、種類別、用途別、市 場予測(2018-2029)

■出版社:HJResearch

■レポート形態:PDF(Eメールによる納品)

■主な掲載内容

キレート剤の市場ダイナミクス分析

キレート剤の大手企業分析:BASF、AkzoNobel、Fuyang Biotech、Dow、Dongxiao Biotech, Kaixiang BioChem, Taihe Chem, Huiyang Biotech, PMP, AVA Chemicals, Jungbunzlauer, Roquette Freres, Kemira, Langyatai, Jack Chem, IRO Chelating, Ashland, Qingshuiyuan, NICCA, ADM, Huntsman, Tosoh, Huaming Biotech、Unischem(企業概要、製品概要、販売量、売上高、価格等)(2018 2023) キレート剤の種類別世界市場規模(販売量と売上高)(2018 2023)

キレート剤の用途別世界市場規模(販売量と売上高) (2018 2023)

キレート剤の北アメリカ市場規模(販売量、売上高、輸出入) (2018 2023)

キレート剤のヨーロッパ市場規模(販売量、売上高、輸出入) (2018 2023)

キレート剤のアジア太平洋地域市場規模(販売量、売上高、輸出入) (2018 2023)

キレート剤のラテンアメリカ市場規模(販売量、売上高、輸出入) (2018 2023)

キレート剤の中東・アフリカ市場規模(販売量、売上高、輸出入) (2018 2023)

キレート剤の世界市場予測:地域別、種類別、用途別(2024-2029)

マーケティング経路の分析(ダイレクトマーケティング、間接マーケティング)

キレート剤の産業チェーン分析(上流主要原料、下流主要消費者)

付録(調査方法、情報源、著者情報等)

■レポートの詳細内容・お申込みはこちら

日本語レポートリンク: https://www.hjresearchjapan.com/chelants-market-reportp271439. html

- ■ご購入検討用にレポートサンプルのご提供や試読サービスなども行っております(無料)。
- ■本件に関するお問合せ先

HJResearch

マーケティング担当 jason@hjresearch.com

Generated by ぷれりりプレスリリース

https://www.prerele.com